



日本湿地学会第4回大会報告

1. 学術報告会及び特別セッション

2012年9月1日、東京農業大学世田谷キャンパス（東京都）において、日本湿地学会第4回大会が以下のプログラムで開催された。

[一般口頭発表<第一部>]

1. 「湿地関連の国際諸大会における『大会宣言』のインパクト」安藤元一（東京農業大学）、中村玲子（ラムサールセンター）
2. 「北海道湖水地方の誕生 – 一般社団法人湿原研究所設立とその活動について」白井隆・辻井達一・林光繁・曾根一・小林英嗣・相田英文（湿原研究所）
3. 「ラムサール条約登録湿地における、子ども育成プログラムの明るい未来」芝原達也・星野七奈・永井祐紀・井坂紗弓・椎名明日香・小山文子（谷津干潟自然観察センター）
4. 「『湿地の文化と技術 33 選』にかかわる理論的諸問題」笹川孝一（法政大学）、辻井達一（日本国際湿地連合）、佐々木美貴（日本国際湿地連合）、安藤元一（東京農業大学）、名執芳博（長尾自然環境財団）、小林光（自然環境研究センター）、高田雅之（法政大学）
5. 「『湿地の文化と技術』北海道版インベントリーの作成に向けて その2」牛山克巳（宮島沼水鳥・湿地センター）、佐々木美貴（日本国際湿地保全連合）、笹川孝一（法政大学）、辻井達一（北海道環境財団）、名執芳博（長尾自然環境財団）、安藤元一（東京農業大学）
6. 「『湿地の文化と技術』日本から東アジアへ」名執芳博（長尾自然環境財団）、安藤元一（東京農業大学）、小林光（自然環境研究センター）、笹川孝一（法政大学）、佐々木美貴（日本国際湿地保全連合）、高田雅之（法政大学）、辻井達一（北海道環境財団）
7. 「イラン国アンザリ湿原における湿原保全体制の構築」谷本晋一郎（日本工営）
8. 「Potential, Opportunity, then Value: 湿地生態系サービス定量評価のための基礎哲学の整理と応用」太田貴大・林希一郎（名古屋大学）

[一般口頭発表<第二部>]

9. 「西別湿原における15年間の植生変化」藤村善安（産業技術総合研究所）
10. 「札幌市の都市公園につくられた湿地における12年間の植生と水文化学環境の変化」矢部和夫（札幌市立大学）、中谷暢之（酪農学園大学）
11. 「湿原生態と流域水環境」橋治国（グリーンサイエンス21、環境クリエイト）、折戸聖（北開水工コンサルタント）、石川靖（北海道立総合研究機構）
12. 「『干潟生物の市民調査』手法による八代海のベントス相調査」中川雅博（日本国際湿地保全連合）、佐々木美貴（日本国際湿地保全連合）、榎本輝樹（千葉県立保健医療大学）、多留聖典（東邦大学）、森敬介（国立水俣病総合研究センター）、つる詳子（自然観察指導員熊本県連絡会）、鈴木孝男（東北大学）
13. 「『三番瀬市民調査の会』の活動」伊藤昌尚（三番瀬市民調査の会）
14. 「宍道湖と松江堀川で突発的に繁茂した水草の現状と課題」國井秀伸（島根大学）
15. 「岐阜県東濃地方における湧水湿地群の現状」河合和幸（テイコク）
16. 「ラムサール条約湿地『東海丘陵湧水湿地群』について」大畑孝二（日本野鳥の会）

[公開シンポジウム「ラムサール条約と湿地」]

テーマ：

ラムサール条約における湿地保全とワイズユース：現状と未来を考える

ファシリテーター：

中村玲子（ラムサールセンター事務局長）

記念講演：

ラムサール条約湿地保全賞受賞 辻井
達一（日本湿地学会会長）

話題提供（発表順・敬称略）：

- 1) 「ラムサール条約第 11 回締約国会議（COP11）報告」柳谷牧子（環境省野生生物課）
- 2) 「ラムサール条約湿地片野鴨池の取り組み」寺前秀一（石川県加賀市長）
- 3) 「ラムサール条約促進に向けた企業の取り組み」関島力（アサヒビール）



学術報告会風景

2. 日本湿地学会 2012 年度理事会

2012 年 8 月 31 日、渋谷フォーラム 8（東京都）において理事会が開催された。概要は以下のとおりである。

- ・ 監査済み資料に基づき、2011 年度決算報告が承認された。
- ・ 2012 年度事業案及び予算案が提案され承認された。
- ・ 未納会費催促の方法等が検討された。
- ・ 2012 年度大会準備について、スケジュールの一部変更、座長等が検討された。
- ・ 理事会選挙については 2014 年度までに準備を進めることが確認された。
- ・ 学会誌編集体制について、藤村善安氏（独立行政法人産業技術総合研究所，湿原植生学）を新編集委員として加えることが報告され承認された。
- ・ 学会広報活動について、大会での販売等、学会誌の活用による学会広報の方法が検討された。また、会員募集用のチラシを作成することが確認された。
- ・ 2013 年度の加賀市大会の運営について、実行委員会の組織等が検討された。
- ・ 湿地学会主催の勉強会などを定期的に首都圏で開催されることが提案され、検討されることとなった。

3. 日本湿地学会 2012 年度総会

2012 年 9 月 1 日、東京農業大学世田谷キャンパス（東京都）において総会が開催された。概要は以下のとおりである。（議長：武者孝幸監事（ラムサールセンター）、記録：牛山克巳理事（宮島沼水鳥・湿地センター））

【議案 1】 2011 年度事業内容及び決算報告

- ・ 監事による監査済み資料に基づき審議がされ、承認された。
- ・ 未納金の状況について、2010 年度及び 2011 年度の納付率が報告され、学会誌の送付に併せて督促を行うことが確認された。

<日本湿地学会 2011 年度決算（2011 年 4 月 1 日～ 2012 年 3 月 31 日）>

科 目	決 算 額
＜収入の部＞	
1. 年会費	(609,000)
2010 年度分一般会員 9 人 54,000	
2011 年度分一般会員 79 人 474,000	
2011 年度分学生会員 3 人 9,000	
2011 年度分団体会員 1 団体 30,000	
2012 年度分一般会員 7 人 42,000	
2. その他	(76)
補助金	0
雑収入	76
当期収入合計	609,076
前期繰越収支差額	319,480
収入合計	928,556
＜支出の部＞	
1. 大会運営費	(0)
2. 和文誌作成費	(315,000)
和文誌編集・印刷代	315,000
3. 管理費	(33,619)
振込手数料	1,050
通信運搬費	340
HP 運営費	31,500
消耗品費	729
4. 予備費	(0)
当期支出合計	348,619
当期収支差額	260,457
次期繰越収支差額	579,937

【議案 2】 2012 年度予算案及び事業案

- ・資料に基づき審議がされ、承認された。
- ・管理費の増加について質問があり、通信費及び HP 運営費の増加によるものと説明がされた。
- ・予算・決算等に関する記録を学会誌に掲載することが提案され、編集委員会と検討していくことになった。

<日本湿地学会 2012 年度予算 (2012 年 4 月 1 日～ 2013 年 3 月 31 日) >

科 目	予 算 案 額
<収入の部>	
1. 年会費 会員 112 人 (一般 106 人, 学生 6 人), 団体 1 団体	(684,000)
2. その他 雑収入	(100) 100
当期収入合計	684,100
前期繰越収支差額	579,937
収入合計	1,264,037
<支出の部>	
1. 大会運営特別会計へ繰入	(100,000)
2. 和文誌作成費 和文誌編集・印刷代	(320,000) 320,000
3. 管理費 振込手数料 通信運搬費 HP 運営費 消耗品費	(69,500) 2,000 10,000 52,500 5,000
4. 予備費	(194,600)
当期支出合計	684,100
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	579,937

※事務人件費が発生した場合は、予備費の充当を検討

【議案 3】 今後の学会広報活動について

- ・学会基盤を安定化するため、今後も会員の協力を頂きながら会員の獲得を目指し、他学会大会時等における広報に、学会誌の活用やリーフレットを作成することが確認された。

【議案 4】 その他

- ・理事選挙に向けて理事の任期や選挙規定について確認され、学会誌編集体制強化のため藤村善安氏を編集委員に追加したことが確認された。
- ・次年度開催地である加賀市との協力体制や首都圏における研究会の実施を検討していることが報告された。
- ・その他会員からの意見として、学会としてパブリックコメント等で社会への情報発信を強化することが

提案され、将来的には積極的に行なっていくことが確認された。

(日本湿地学会事務局・同学会誌編集委員会事務局)

